明治廿八年十二月四日印刷
明治廿八年十二月六日發行

婦人衛生雜誌

第七十三號

私立
大日本婦人衛生會

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF MICHIGAN

大日本婦人衛生雜誌
第七拾三號
目次

講演

◉種痘と天然痘の病毒に就て　醫學博士　緒方正規君
◉生理學講義（第四回）　醫學博士　坪井次郎君
◉北里博士の血清療法演說

衛生叢談

◉酒と煙草の嗜好
◉虎病豫防の注意
◉臺灣熱
◉不產黴菌性水製造機械の實地試驗
◉來年はコレラ大に流行せむ
◉三府に於ける本年の虎列剌
◉鷄卵中の害虫
◉東西摩按術の差異
◉日本人享年の平均
◉吸付煙草と酒盃の献酬
◉マラリヤ熱の流行
◉癩病の研究
◉タコ娘
◉大日本婦人衛生會例會

大日本婦人衛生雜誌
第七拾二號
目次

講演

◉生理學講義（第三回）　醫學士　坪井次郎君
◉肺結核に就て（前號の續）
◉ユルドリッチ博士のコレラ豫防に關する家族心得
◉所謂腦病に就て

衛生叢談

◉虎列剌病の實驗談
◉精神病患者統計
◉倫敦の衛生
◉軍人軍屬入院手續
◉痘苗取締規則の制定
◉不具の多い國
◉近視眼の增加
◉衛生上の注意
◉再歸熱と地方衛生會
◉肺患豫防の注意
◉臺灣蕃民の醫術
◉東京豫備病院の患者總數
◉大日本婦人衛生會總會
◉廣告數件

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

婦人衞生雜誌第七拾參號
（明治二十八年十二月六日發行）

講演

◎種痘と天然痘の病毒に就て

醫學博士 緒方正規君 演説
（七月六日於華族會館婦人衞生會例會）

只今余杉君から神經過敏の病人に、妄念の害有ることを御話ありて、大層私も面白く覺ゑ、定めて貴婦人方にも御興味ありしならんが、今後御自身御病氣の時にも効能あるのみならず他の人々に御說き聽かせになりましても、隨分利益が大きい事と考へます。

次に私の今日御話を致しまする事柄は、豫ねて私の研究致しました事、即ち種痘と天然痘の病毒に就ての御話で有ります。ソレを御話致して後に、是れまでの研究に因つて發見しました處の實物を、顯微鏡に掛けて御覽に入れやうと思ひます總ての傳染病の中で最も人の多く罹り且ッ尤も多く死亡せし病氣は、天然痘でありました。假令虎列剌腸窒扶斯の如きも天然痘の如く人を多く殪しましたる事は有らざりしなり。其故は虎列剌の如き腸窒扶斯の如き疾病は位他の貴賤に因て多少區別有り或は老幼に因ッて區別有りますが、天然痘に於きましては、人類の如何なる種類を問はず、男女老幼強弱の區別なく、一樣に其病氣に罹りますので有ります。其故に天然痘の豫防法が未た行はれませぬ時代に於ては、何れの國を問はず該病者の多く有りましたと云ふことは、統計に依ッて解

りません。英吉利に於ては此豫防法が行はれませぬ時分には、天然痘に罹ッて死亡しまする者が、總べての死亡數の百分の七乃至九でありし。即ち百名の死亡者あれば天然痘に罹ッて死する者七人から九人位ゐ有りました。又「プロイス」の統計表に依ッて看ましても、矢張り全死亡者の十二分の一位ゐは、天然痘で死亡するものありと佛蘭西も矢張り總ての傳染病の中で、痘瘡程の惡疫は無かッたので有ります。ト申しまするものは人が外の病氣に罹る性質よりも、天然痘に罹る性質を澤山に持ッて居るので有ります。歐羅巴の諺に疱瘡に罹らない性質を持ッて居るものと、色情の無い人は甚だ稀であると云ふ位ゐに、天然痘には多く人が罹るので有ります。外の急性の傳染病、即ち腸窒扶斯虎列刺の如きは一旦其病氣に罹り其後、癒ゆれば舊の通りの健康体に復する者が多く、其病氣の爲めに生涯治すべからざる不具者になると云ふことは甚だ稀で有ります。然るに天然痘は其病氣に罹ッて死亡する者も多いので有りますが、幸にして一命を全うしましても或は盲目になり或は聾となり、或は鼻を失ひ或は跛になると云ふやうな有樣であります。故に婦人に於ても男子に於ても、其病氣に罹ッてひどく冒されまするど、所謂痘痕が殘り其人は生涯痘瘡に怨みを抱く樣になり人が一見しましても、激性の天然痘に罹ッた人であると云ふ事は、容易く解る位ゐで有ります。斯くの如く天然痘は惡性の傳染病で有りますから、人が其病氣を豫防することの念慮を起しましたのも、天然痘が一番先きで有りました。支那に於ては既に三千年も前に、其豫防法行はれり。其豫防

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

法と申しまするは、天然痘は一度人が罹りますると其後二度罹るといふことはない、或は萬一に之ありても極く稀にして、則ち一度天然痘に罹りますと免疫と申して、其後は病氣を免るゝ性質となる爾う云ふ事柄が昔より解ッて居りましたるより之を以て天然痘の豫防に着手したので有ります。其豫防の方法は天然痘に罹ッた患者より其疱瘡の毒を他の人に縫針の尖にて恰も現今種痘を致すやうに移し天然痘に罹らしめ、或は疱瘡の痂皮を粉末にして、鼻から吸ひこまして、天然痘を移し、或は疱瘡患者の用ゐた衣服を健康の人に着せて、天然痘を感染せしめたと云ふ事も有ります。如是人工的に感染せしめました疱瘡は、自然の流行に因つて罹りましたものよりは輕症で有ると云ふので右の方法を行なッたので有ります。右の方法に因つて天然痘を移しまするも天然痘に罹り多くは輕症なるも稀には隨分激性の天然痘を發するものも有ました。而して其方法は始め支那に行はれましたのですが、其豫防法は印度にも傳はり終に歐羅巴へも傳はりました、故に百年以前に於ては、歐羅巴でも天然痘の流行る時分に、天然痘患者の膿を取ッて健康の人に移しました、日本でも二三十年前までは天然痘患者の膿みを取ッて、直ちに他の人に植えると云事は隨分行はれて居りました。然るに百年前に於て英國に「ゼンチル」と云ふ人が出られて、其人が牛痘、則ち牛に屢々疱瘡が流行るゝ其牛の疱瘡の膿汁を人に植えれば、天然痘を豫防する効力が有ると云ふ事を實驗して、其豫防法を廣く行はねばならぬと云ふことを、政府に建議し其他の人々にも忠告をされました。而して其

牛痘を人に植えまする方法は、決して天然痘を直接に移す如き危險なる方法でなく、充分天然痘を防ぐ事が出來るもので有ります。然れとも「ゼンチル」氏は其事柄を始めから發見されたるに非すして牛の乳を搾りまする人なと屢々牛に疱瘡の流行りまする時分に、冬なとは手に極く僅かの胼胝なとが有ります其胼胝なとに牛痘の漿液が附きます、サウすると直ぐに其處の一部分に膿胞を生し其後は天然痘に罹らぬと云ふことを知ッて居ッたのでありますが、其事が眞に正しいか正しくないか、又充分効力が有るか無いかと云ふ事を「ゼンチル」氏が實驗し而して充分効力が有ッて、危險は少しも無いものであると云ふ事を實驗せるを以て其後は開化したる人民は、此豫防法に因ッて天然痘の害を防いで居る、即ち今日我々が天然痘の害を免かるゝを得るは全く「ゼンチル」氏の賜物で有ります

唯今申す通り天然には豫防法が有り今後天然痘に就ては學術上の研究は必要で無いかと云ふに決してサウではありません。天然痘に就ての學術上研究は唯天然痘の豫防のみに止まらす其他の傳染病の豫防法にも隨分應用し得ること少なからす總ての傳染病に就ても其病毒の發見されない前に豫防法が解ッて居ッたので、例えば虎列刺の如きも、其病毒の發見前に於て、今日より十年も前でありましたが其以前から種々の豫防法が有ッて、今も其豫防法が用ゐられて居るものが有ります。併し病毒を發見しまするど、従ッて豫防法も進歩し虎列刺に於ても病毒の發見された後は、其豫防法も余程進歩して參ったので有ります。而して傳染病

の中で天然痘は一番始めに豫防法も出來ました、併し其豫防はドウ云ふ譯で出來まするのであるか其原理に至ては數百人の學者が研究して、種々の説を立て又其天然痘に就ての學説を外の傳染病の豫防法に應用して、良結果を得たものもありと雖とも天然痘の病毒、並に種痘の病毒に就ては、斯くの如く研究者が多いにも拘らす、種々の説が出て、未だ其説が一定して居りませぬ。則ち學者が一般に、天然痘の病毒は是れてあると云ふ事を、是認したものが無いのであります、故に從來の處では學者も醫師も、種痘即ち牛痘を人に植ゑますれは、天然痘を防ぐ効力は有ると云ふ事は知れるも天然痘に如何ある病毒があるか、又牛痘の漿液に如何なる物体があるかと云ふことは少しも知らずに、唯天然痘を豫防するの効力があると云ふてとを信じて、種痘を施して居るのであります。

獨逸に原蟲學と云ッて、最下等の動物學者にして種痘の病毒の研究に就ても有名なる「パイベル」と云ふ人あり其人が種痘並に天然痘に關して研究して得たる成績を集めて、醫事雜誌に報告せり其人の申すには、天然痘の豫防法は始めて「ゼンナル」が行ひ、其後今日に至るまで百年間は經過し、其百年間には種々の發見もあッたので有ります。從て其書類は隨分夥多いものであるか、併し其病毒に就ての發見は、既に百年前「ゼンナル」氏の見出されたもので、其後は多くの研究者が出でたるも其研究は元の仕事即ち「ゼンナル」のした事を證明するに止ると、例ゑば痘苗を顯微鏡に懸けて看ると極く細かい光澤ある物体の見るを得べきも其細かい物体の見えるのは前々より解ッて居ッたので

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

有ります。故に「バイペル」は今より十年ばかり前に醫事雜誌に掲けて云はるとあり即ち三十年前から十年前までの二十年間の種痘に關し諸學者の研究を書きましたが、其研究に從事しました者が二十年間に百五名程有ります。其中に於て或は病毒は、麴の黴菌のやうなものであると云はる人も有り或は「バクテルヤ」であると云る人も有り、或は原蟲と申して最下等の動物であると申した人も有ります。併ながら今日其圖を觀ますると、如何なる「バクテリヤ」であるか確定致さぬので有ります

バイフエル氏は種痘學に就て書物も著述せられ、病氣の種にある原蟲と云ふもの丶學問、即ち原蟲學と云ふ書物も著はれました。其書物に書いてありますのに「ゼンチル」氏の種痘術を發明されて以來百年も經過するが、其研究は未だ終を告げないのである、併ながら天然痘幷に種痘の病毒と云ふものは、恐らくは兎に屢々寄生蟲があり天然痘の病毒も、此寄生蟲に似たものならん必す如是ものあるべく「バクテリヤ」ならざるべしと豫言致されました、其後に至つても隨分人が天然痘幷に種痘に就てはいろ〳〵研究せるも、是れが病毒であると云ふことを確定したものは有りません。

私は先年來痘苗に就て顯微鏡の撿査を致し、又痘苗に就ていろ〳〵と其病毒を發育させる事に就て研究したのでありますか、良い成績は得なかッたのである。併ながら昨年の冬以來主に痘苗に就て、顯微鏡の撿査を致したので御座います。其研究を致しますには小兒に種痘をしまして、其種痘の出來ました痘疱より一定の方法で硝子の毛細管中に取り顯微鏡に掛けて種々の方法で觀ましたの

で有ります。サウ云ふ工合に顯微鏡で撿査をして見ますると、既に人の發見して居る處の痘漿液中に物体あり今日其圖を二三枚持つて參りましたから、ソレを御目に懸けまして、後で顯微鏡に掛けてございますから實物をも御覽に入れ樣と思ひます。

是より同氏は數多の圖に就き其發見せられたる寄生蟲の種々ある發育期幷に人傳漿牛痘漿及ひ天然痘漿に於ける該蟲形狀の差異等を委しく說明せられたるも今回は該圖を揭げるの暇無きを以て之を略し其說明の大意を記す

種痘を施せる小兒の痘疱より其漿液を採取し之を顯微鏡下に撿すれば已に數多ある學者の證明せる如く強く光線を屈折し光澤ある小体の浮游し分子運動を營めるものあるの他尙其小体より數十倍或は數百倍大にして其形狀差等ある透明なる胞樣物を見るも其小体幷に胞樣物は如何なるものなるやは不明なりし

余はリスリンを加へ貯藏せる人傳漿を取り之をデツケ硝子に塗り乾燥し結核バチルヽス着色法と相類似せる着色法にて着色し一定の顯微鏡漿寫にて其標本を撿査せしに未た是迄諸學者の發見せざる無數ある小体の該漿液中に含有し鮮明に着色して現出せるに驚けり而して其小体は大さ不同なるも概して人身体の赤血球より大にして其形狀或は圓く或は卵圓形なりとす、故に其形狀圓形及卵圓形の金柑形に類似す而して其小体を委しく鏡下に撿するに外部は非薄ある透明の膜を以て被包せられ其膜僅かに着色し其內容は透明ある物質にして着色せす其中に一箇或は數箇の着色せ

る圓形の細胞核を含有し恰も成熟せる葡萄に於て外部より其種子のあるを透見し得るが如し故に其小体は細胞の性質を備へたるものありとす然れども其大小と細胞核の數には差等あり一箇の核を有せるものは其形ち小にして多數の核を含有せるものは彼よりも數倍大にして其細胞中に一箇或は數箇の壁隔ありて其隔壁間に一箇乃至數箇の核を含有し終に是の多核性細胞よりして所謂包嚢を形成するが如し

右標本に於けるも或は小兒の種痘疱より其漿液を採取し一定の方法に據り着色し顯微鏡下に撿するに前述せる小体の他尙種々なる物体を含有せるを發見せり或は前述の細胞にして其中に核を含有せず數多の半月狀体を含有し或は該小体より數十百倍大にして包嚢狀をなし其包嚢中に數多の該小体(細胞)を含有せるありて其包嚢の形狀大小にも亦數種あり就中一種の包嚢にして其膜は光澤を有し透明にして恰も結晶の如く見えるもの丶中には卵圓形にして外部は透明の膜を有し其内部に數箇の光澤を有せる顆粒物と有核性細胞とを含有し其顆粒物の外部に排出せる如き開口部ありてその卵圓形物体に於けるも亦大小に甚た差等あり或は該物体にして如是顆粒物を含有せすして中に平等同性質なる物体を含有し其内容物外部に出てアモベ樣体となるものあれり又た新鮮なる人痘漿より製せる標本に於て一回一種固有の形狀を有せる蟲狀のものあり其前部は細永くして中央に縱線及ひ核あり其後部は彼よりも數倍大にして圓柱形を呈し其長徑に沿ひ無數の纖維あり其後端には二箇の細長き帶狀の物体にして各其中央部に核を有せ

るものゝ附着せるを見れり
人傳漿液中には尚上皮細胞ありて其中には前述の顆粒物或は有核細胞或は無核性なる小胞或は卵圓形物体にして其中に有核細胞等を含有せるものあり其他人傳漿液中に含有せる包嚢の種類並に種々なる形狀の細胞等多くの圖に就て說明せさるものは略すと雖も要するに前述せる細胞包嚢卵圓形物体並に一種固有の形狀を有せる蟲樣体等は皆一種の原蟲の種々なる發育時期に從て其形狀を變更せるものゝ如く而して該細胞の核を有せるものは幼稚なる發育期にして之よりして包嚢を形成し其包嚢中に彼の卵圓形狀を有せるものは永續胞子なるか如く彼の前述せる一種固有の形狀を有せる蟲樣体は該寄生蟲の發育生長したるものゝ如し又た右の發育變化は人身体に於て殊に種痘の接種部に於て其組織中に其部の細胞を破潰し發育を遂くるか如きを以て該寄生蟲は無害ならさるべく恐く種痘の病原なるべしと思考せりと云々
前述の他牛痘漿並に天然痘漿液中に含有せる寄生蟲と思考す可き小体に就ても亦顯微鏡にて撿査せられたる圖を以て說明せられたるも前述の如く圖を掲けざるを以て略せりとす

◉生理學講義

（第四回）

醫學士　坪井次郎君演說

私の擔當ッて居りまする生理と解剖の講義は種々已を得ぬ用事が有りまして、つひ御無沙汰になりましたので甚だ相濟みませぬ、今回より其續きを御話致します。

今日は呼吸器系統と申しまして、人の呼吸をする道具及夫れがドウ云ふ工合に働くかを御話し仕樣と思ひます。

人生に空氣が最も緊要であると云ふことは、皆樣も御存知で有りませう。人は隨分長い間、食物を取らずに居る事が出來ます。四十日間位ゐは。絶食をしても、活きて居ると云ふ例が有ります。併し空氣の方はサウ云ふ譯に參りませぬ、極く僅かの間でも空氣が通はなくなッても生命が亡くなるので有ります。さてドウ云ふ工合に空氣を身體の中に吸收するか、又何故に人間の身体に空氣が必要であるかと云ふ事は、ドウしても生理學や解剖學を知らねは解る道理は無いので御座います。先づ私は最初に空氣を身体の中に取る道具から御話を致します。空氣を吸入する道具は、肺臟と之に附屬して居る氣管で有ります、肺臟は此の通り胸膈の中に充滿して居ります。是れは平面の圖故想像が六ケ敷くありますが摸型が此に御座いますから、是れを御覽になると能く解ります、此肺臟が左右の肋骨の内部にあります、肺臟の色は小兒に於きましては此摸型の如く紅色を帶びて居りますが、大人に成りますると、從ッて色が黑くなります。此摸型にも見へます通り、肺臟の内に色々の管が通ッて居る、是れは血液を通はする動脈靜脈等であります。其外肺臟の内に空氣を通はする管、則ち氣管と云ふものか有ります。空氣を吸ふは鼻孔及口で有りますが、其鼻と口とで吸つた空氣は氣管を通ッて、肺臟の内に這入ッて往く。此の通り(摸型を示さる)氣管が左右に分れて、両方の肺臟に通ふやうになつて居る。而して氣管の最

上部に在るものは咽喉にて、空氣の出入する門戸で有ります。肺臟は左右各十二枚の肋骨で圍まれて居りまして外圍の侵襲に對し保護されて居ります、胸腔と腹腔との間にて横隔膜と云ふ筋がありまして之を上下部に區劃して居ます。人が空氣を呼吸する道理を尋ねまするに空氣を吸ひまするときには肺臟の內に空氣が這入ります、此時には肺臟が膨脹します。又空氣を吸出するときには、肺臟が萎縮して空氣が外に出て往きます。併し肺臟の伸縮は肺臟自ら働くのではない、他のものが肺臟を働らかすので有ります。其理は呼吸をしまするときには、必ず左右の肋骨が始終動いて居ります。則ち空氣を吸ひまするときには、肋骨に附着して居る筋肉が收縮しまするど、肋骨を上に上げて之を廣げますサウするど胸膈の中が廣くなる、之が爲め肺臟も同じく廣くなる。肋骨ばかりでなく、横隔膜も肺臟の運動に關係を以て居る、横隔膜が縮みますと下の方にさがッて往く、此時は胸腔が廣く成ッて來ますから肺臟が擴かります故に人が呼吸をするのは肺臟か直接に働くのではない、肋骨及横隔膜の伸縮に因ッて、肺臟が間接に伸縮するのでありまず肺臟と云ふものは護謨の球の如き彈力を以て居るものゆへ。胸膈の廣がるときには肺臟も夫れに伴れて伸び、胸膈の狹くなるときには、肺臟もソレだけ縮むので有ります」

肺臟の膨脹したときには、外(鼻口)から肺の內に空氣が這入る時で有ります、其時には新鮮の空氣が這入つて來て・空氣中大切なる酸素が・肺臟の脈管の內に這入つて、而して肺臟の內の血を洗滌するので有ります。(其事は前回に詳しく說いて

置きました)、此際肺臟の内の炭酸に富んだ空氣は、肺臟の縮まつたときに外に呼出されます。人間の身体に在る處の血液中には、澤山の炭酸を含んで居ると云ふ事を証明する爲めに、試驗をして御目に懸けます。石灰水は炭酸に會ふと白色の沈澱を起します、故に今石灰水中に、私の呼氣を通過致しますれば。暫くするうちに白く濁つた水に變じます。斯くの如く白ろくなつて參つた理由は呼出氣中に、炭酸が多量にあつた証據である。酸素を呼吸の時に取ッて、血液の中に送ると云ふことを御話をしましたが、是れは最も大切なる生理上の作用で有ります。其事は既に御話しました。何故必要かと云ふに、我々が常に取りまする處の食物は、腸胃に於て消化されて、矢張り血の中に這入ッて往く。ソコで肺臟から這入ッた酸素が來ますると、血液の中の食物が酸素の爲めに燃えます、食物が燃ゆるが故に體中に温を生じます人が毎回呼吸する空氣の量はドの位ゐかと云ふに三合位であります、力を盡して呼出すると、一度に二升近く出します、此量を名けて肺の活容と申します。此空氣呼出の量は、大ぶんに身體の强弱に關係を持ッて居ります、體格試驗などをするときには、此量を知るの必要があります、之を計る器械を「スピロメーテル」と申します、此の空氣を吸入する道は氣管であります、人が咽喉を縊びられなどするときは直ちに氣絶する、何故かと云ふに氣管が壓されて、ソレが爲めに空氣が通はなくなるからであります、又或る病氣でも氣管が狭くなる事があります、即ち小兒の實扶的里等の如きものであります、最も危險の實布的里に對する

第一の策と云ふのは、空氣の通ふ道を開くことで有ります、ソレはドウするので有るかと云ふに、醫師が皮膚を切開しまして、氣管を斷り、狹くなッたところの部分を開きまして、管を挿入します、サウすれば空氣の通ひが宜くなりますから、危きを救ふことが出來ます。ソレ故質扶垤里亞に罹りましたときは、其小兒の親たるものは、兎も角も氣管を切開することを醫師に許さなければ往けませぬ。ソレを父母が許しませんで、親類に相談をするとか、或は地方の者などは、田舍に聞きに遣ッてからなどゝいつて悠々して居りますと、其中に小兒の方は死んで仕舞ッて、永く憾みを遺すやうなことになりますから、斯う云ふ塲合には是非醫師の命令に順はなければなりませぬ。總じて氣絶して呼吸の斷へたるときには之を救濟せねばなりませぬ喩へば溺死者に遭遇した時であります、此際には人工呼吸と云ふ術を施します人工呼吸の方法は誰れでも知ッて居らなければならぬ事で有ります。是れを知ッて居れば、人を救ふことが出來ます、之を施すには肋骨の下の方の部分を強く推します、サウすると胸膈を狹くして、肺臟が縮みますから内から空氣を呼出す、ソレから手を離すと肋骨が緩み肺が廣くなりますから、外の空氣が肺の中に這入ッて參ります、或は又左右の腕を擧げて助けることもあります、是れは誰でも心得て居らねばならぬ事であります

尙ほ一つ呼吸器に就て申上げなければならぬ事は、人の聲を發しまするのは、呼吸と關係の有ることで御座います。聲を出しまするのは、空氣が氣道を通ふときに、空氣が一種の煽動をしまし

て、音を發するのであります。其音を發する場所は何處かと云ふに、喉頭の内部に一の道具があるからであります、則ち喉頭内には一の樂器があッて、其樂器が運動致しまするど、聲を出すのであります。此樂器は喉頭内の聲帶と云ふ筋であります、之は恰も三味線の糸の如きものでありまして空氣の通過する際顫動します、之が爲め空氣も共に顫動して音聲を發します、而して此筋の伸縮に因つて、低い聲高い聲等が出るので御座います。

（以下次號）

◎北里博士の血清療法の報告

演說

北里博士の監督する廣尾避病院に於て博士が責任を以て虎列拉患者に始めて血清療法を實施せし結果は既に内務大臣には具申せしも未だ世に公けにせられざりしが去廿一日午後六時神田一ツ橋大學講義室に於て豫報の如く之を公けにせられたり

今晩はコレラ病血清療法に就て御話を致す積りですが前提として玆にコレラ病の起りし歴史の事を述ぶるは敢て無用にあらずと考へます何となれば歴史上にも世の中には隨分誤謬の報告あらさにあらざればなり元と傳染病なる者は或る部分に付ての外未だ之を人体に施こし免疫さする方法は昔より行ひしとなく只今を距ると百年前種痘法が世の中に發見せられたるも偶然の發見にして學理に依て確めたるものに非らず其後中絶せり是等の方法は一度非常なる人に依て發見せらるゝも其後中絶とあるは凡て學問の習となつて居る譯で免疫法の如

きも其後に至り佛蘭西のパスティル氏多くの試驗中漸く雞のコレラ狂犬病の免疫法を發見し世の中に紹介せられたるとは已に諸君の知らるゝ所にして其法黴菌學を助けたるに相違なしと雖も黴菌學上純粹法より見れば狂犬病の如きは病源尚は不明なりと云はざるべからず又種痘の原因も未だ詳かならず我々の眼にても未だ黴菌學上確むると能はざるなり故にパステイル氏の發見も學理上より云へば甚だ迂遠なるものに過ぎず假令へばジプテリヤのトキシンを試驗せし如きは未だ彼輩の手では知らざりし所に係る依て我々の眼より見るときは黴菌の血清を以て治療法を研究せしはコブ氏のツベルクリンを以て第一とす故に予が血清法も多少之れより起りしものと云はざるべからず予は先年獨逸に在りし時コブ氏と共に此法を研究したり其際恰かもコブ氏がツベルクリンを發見して世に公にせんとし此ツベルクリンを以て他の動物に應用し再び同法を受繼て他の傳染病にも應用すれば必ず効を奏すべしと考へて研究を初めたるが予は少しく他の途に依て考ふるにヂフテリヤのトキシンを弱めて他の動物に用ふるときは動物は少も感せざるを以て更に一種他の免疫せざる動物に注入せしに少しもヂフテリヤに感染せざると明かなるを以て其方法は稍同じきに似たりと雖も此試驗に依て段々進で研究を積むに從ひ最早動物に於ては少も差支なきこととなり終に此血液の中の透明なる血清を採りて他の動物に注入せば必ず効を奏せしを以て人に應用して可なるべきを曉り爰に初て治療法を明にすることを得たり故に今日の血清法は決して佛のパスティル氏の法に依りたるもの

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

にあらず其後歸朝して之を進むることに志ざし明治廿五年大日本傳染病研究所を設け之れが研究を囑託されたるも學者の仕事は歲月を要するものなれば一時に顯はるゝものにあらず併し乍ら血清法はヂフテリヤ痲疹肺結核ペストコレラは已に其効著し此他尚は多くあるも他日に御話しすることもあらんヂフテリヤの研究のことは已に諸君も承知せらるゝ筈なれば茲に大体を述べんに此治療血清は純粹培養に依て爲さゝればバチルスを殺す能はず之を殺すには一定の温度を以て殺す者にして温度高き時はトキシン、アンチトキシン迄も悉く殺すに至る一定の温度とは五十五度乃至六十度にし一時間間温むれば多くのバクテリヤも殺すことを得而して少量のトキシンを殘すあるも免疫の順序せして多少の時間を要するを以て種々の病を十分に免疫さするには一年を見込まざれば完全なる免疫とは云ひ難し此の如く免疫の度強さを以て血液を取るに從ひ始終アンチトキシンを殘すは未だ我學問の進まざる一缺點と云ふべし然れども近時化學の進步と共に追々研究を盡すことを得ば數年の後よは動物体を借らずして直に之を施すことを得べしと信ず且トキシン及アンチトキシンには培養器に於ても分離する能はざれは或人は之を研究せさるも今日は醫學上の大問題となり居るなり

是よりコレラ病の事を御話し致しますが先年獨逸に於てクリンエル、ワスセマン等の諸氏はコレラの免疫のことを研究し又コブ氏のツヘルクリンに於る方法にしても未だ實際人に應用するに至らす予も亦前に述ぶる方法を用ふれは必ず効を奏すべしと云ふ迄にて歸朝せざるを得ざる都合となり日

本には其後コレラの流行なきを以て終に之を試むるを中止したりしが今春偶々征清の戰始まりて以來金州にある我軍隊にコレラ病發生の報告に接したるも此際は深く之を信ぜず何となれは金州は寒氣強くして且コレラ病の本國は印度にして支那にあらざれはなり其後確なる筋に達せし報告を見て愈發生せしとを知りしが何或は霍亂の類ならんと疑ひ居れり其後廣島にも續々起れり伊部軍醫正より症狀を詳記し予に鑑定を依賴せられたるに始めはコンマバチルスを見ず終に送付の大便に依て之を發見するとを得是より印度コレラ病あるを知りたると同時に中濱博士も廣島に於て之を發見せられ玆に始めて日本に眞症コレラ病あるとを知り取調べて見るに最初金州に在りしにはあらずして外國船中にコレラ病毒ありて傳染し之を軍隊中に蔓延せしめし事實稍慥なるもの丶如し是等は何陸軍省に於て十分の取調べあるとならんと信するを以て暫く玆に疑を存し置かん而して又世人は通常之れを亞細亞コレラと云へども亞細亞にはコレラ發生する所なければ印度こそコレラの本國なれ正しく日本に入りしも印度コレラなり我々亞細亞人の爲めに冤罪と云ふへし夫眞症のコレラが日本に入りしは和田岬にて御用船正寶丸に一時多くの患者發生の報告ありたるを以て研究所よりは北島太一氏を遣り取調ぶるに全く眞症のコレラなるを以て其黴菌を齎らして歸る之れ即血清の種なり夫より北島氏を予が助手として研究に從事せり之より研究の成績に付て御話し致しますにコレラが一所に發生すれは全國に蔓延し今度も不幸にして東京迄來り東京府にては是迄避病院は本所の

みなりしが今回は駒込廣尾にも開らき即ち予に廣尾病院の監督を囑し醫長を北島太一氏に囑し私の製造したる血清を以て實地に應用する機會を得たり之れ不幸中の幸なり或論者は未だ世の中に公認せざる方法を以て瞞着するとの謗ありしが眞正の學者は決して迂濶なるとを爲すものにあらざれは反對者も安心して良法を講ずべし我々は之を確めたる上人體に應用する迄の道行を話せば第一動物試驗の成績より免疫法を行ひたると又正寶丸に發生したるコレラ患者の糞便を研究に持ち歸り純粹培養法を行ひ之をモルモットに注射し又コプ氏の方法を以て胃中に入るれは直に死すメチチコフ氏等の如きも此法に似たり其黴菌をプリオン中に容れ五日乃至十日温度を試み或は黴菌を採り鳩に植られは鳩は少も感せす且種々の試驗を經て到底小動物にては合はざるを發見し山羊羊馬を以て免疫の動物に使用し就中山羊及羊を試用せり是等は感覺の薄きを以て一度感する時は直に衰へ又馬は動物の稍上等にあるを以て一度は感ずるも回復すると他の動物よりも早し今日の處にては山羊十頭羊十頭馬十頭免疫しつゝあり來年若しコレラの發生に際せば充分間に合はす積りなりコレラに對する免疫の血清は如何なる方法にも必要なるがモルモットを殺す所のコレラの黴菌が血清の働を有せざるときはモルモットは死するに至る何れ是等の事は一夕の説明に能く盡くす能はざれば詳細は活版に付して公にする積りなれば夫にて御承知ありたし然れどもモルモットにコレラ病毒を試むるに注意すべき程度はモルモットを殺す丈にはコレラ黴菌二百グラム内外を注射すべし宜しく分

量を定め何時間にてモルモットは如何なる程度に至るべきやを量り假令ばモルモットの体量二百廿グラムに對し血清一グラムを用ふれば体温は攝氏三十七度二となり一時間毎に体温は三六、二次に三五、三と次第に回復するに從ひ上ると同時に同量目のモルモットにコヲレの培養液一グラムを注射すれば最初は三八、四夫より二時間毎に三八、六、三八、八、三七、五、三六、〇となる是体温の次第に下るは病症の重きとは通常の例なり

又た血清の分量、〇、五。〇、〇一と減じ注射し其の他種々試驗に依つて人体にも應用し得ることを發見したり而してモルモットのフックに微菌を容れて見るに皆な死に至る之れに依つて見れば動物体中にも一種の働きなかるべからず是はメチチコフ氏のクワコチウテンケヲリーと云ふ者にて動物体より出で直に微菌を食殺すの力を有するは間違なしと云ふべし又漸次血清の量を少くして〇、〇〇二の血清にてコレラを助くることを發見す然れども〇、〇〇〇一とあるときは助くること能はず是れ免疫の度強きに因るものあり又培養液をフック内に入れば一時間たゝざるも直に殺すことを得べし且他の方法なる皮下に注入するは〇、〇二にあらざればモルモットを助くる能はず然れども之をフック内に注射せば直に働くを以て僅少量を用ふるも可なり元來皮下注射は回旋して感ずるを以て多量を要するは通常の例なり今一ッの試驗はコレラの微菌は胸中にコレラのトキシンを發生しコレラの狀を起すを以てモルモットに二ガラムを注射し此の病毒に對する血清は〇、二の多量を要せざるべからず又血清のことに付てはバイベル氏の考へに

はコレラのトキシンに對しては効力なく只黴菌を殺す力を有するのみ到底○、二を以て殺すと能はずと又ベイリンク、ランソン両氏の説に依れば○、五を以て殺すとを得ると云ふ然れ共予の研究に依れば○、二を以て之を防ぐのみならず健康なる馬に對し試みたる上に於ても巳にバイベル氏の考は間違なりと云はざる可らず我々は治療法の試驗を必要とするを以てモルモットに時間の差を設けて注射せしに八時間目に至れば防ぐ能はず七時間迄は防ぐを得是即ちコントロール(對症試驗)に依てコレラ病の三分一を助くるとを得る者にして即ち豫防の目的なり此目的はヂフテリヤも亦同とす以上陳ぶる所を概括すれば第一コレラの血清は動物体にコレラ黴菌を殺すの力あると明なり「第二」○○○○二の血清を以て動物を殺す力あると第三コレラ黴菌は皮下注射して効力あると第四コレラ血清はトキシンに注射すると同時に免疫法をも施し得ると第五胃より感染したる動物には効力なしと云ふも成績を得るに疑なきと第六中毒症状を發したるに對し尚之れを施し得るとも明なり右成績明かなるを以て人体に應用するとは安心して毫も疑ふ所なく且血清其物の無害なるとをも判明して毫も疑ふ所なく且血清其物の無害なるとをも判明して應用せし所以なり前に云ふバイベル、ランソン、ベイリンク三氏の如きは種々の試驗をなせしも未だ以て人体に應用したるとなく故に今回我々が第一の試驗を行ひたると見て可なり云々是れより治療の成績に移れり

(未完)

衛生叢談

◉酒と煙草の嗜好

酒と煙草とは精神を鼓舞作興せしむと云ふ者あり或は之を沈淪沮滯せしむと云ふ者あり其精神上に及す所の影響如何に至りては人各々其見る所を異にす英人チャーレス、リード嘗てこの疑案を解釋せんと欲して廣く書を各國の著名なる文學者、小說家、新聞記者、理學者、政治家等に寄せて其嗜好と意見とを問ひけるに答書の來れるもの都て一百二十通に及びしかば之を輯錄編成して世に公けにしたりき而して其査覈討尋して獲たる所の結論に據れば酒と煙草とは健全無病なる勞腦家に對しては更に些益なしと云ふにありき今諸名家の嗜好如何を觀るに

政治家に在てはグラッドストーンは非喫煙家なり然れども酒は大に精神を勞するの際に必要なりと云ひ且つ平生略饌にクラレット二盃午餐にクラレット二盃と淡白なるポート、ワイン一盃とを飮むを常とすアルギル公爵は醫師の勸告に因て只少しづゝ酒を用ふれども煙草は手にだも觸るゝことなしサー、ジョン、ボックは煙草は有害無益なりとして更に用ひず佛のジユール、シモンは煙草は男子をして自から女子に疎遠ならしむるの弊を生ずとして之を斥くルイ、ブランクは酒も煙草も絕て用ふることなければ隨て其利害に付き平生何等の意見をも有せずといへり

理學者に在ては佛のポール、ベルトは余は生來煙草を嗜まざれば嘗て之を喫せることなし酒は余の

好む所なれば喫食の度ごとに之を用ふるなり其利害如何は只だ分量の程度に因て岐るゝのみといへり英のサー、ヘンリー、トムプソンはアルコールの力の强烈なる到底勞腦を事とする者の能く堪ふる所にあらずといふ博士カーペンターは絕て烟草を喫せず且つ毫も飲酒の必要を感ぜずといへりダルウヰンは每日一盃の葡萄酒を飲むを常とす渠は曰ふ余は是まで常に喫煙草を用ひ來れり而して其余が精神を作興して覃思硏精の勞を助くること素より少からずと雖も而も余は寧ろ此習僻の絕無なるに若かざるを思ふと米の工學家エヂソンは喫煙するときは煙草の力甚だ强烈に過るとして之を避け平素思を練り理を究むるの間絕す煙草を咀む文學者に在ては英のマッシウ、アルノルドは絕て喫煙することなしと雖も酒は常にこれを用ふるなり渠は曰ふ晝餐の時シエリー一二盃と淡白なるクラレット一盃に水を和して飲むときは尤も心地よく覺ゆと、フリーマンは靑年嘗て一二回喫煙を試みたれども何となく忌はしく覺えたれば其後絕て復た之を口にせず渠は曰ふ余が麥酒葡萄酒等を飲むは猶ほ牛羊の肉を食ふが如し別に是ぞと云ふ意見とてはあらずと、ラスキンは二箇の理由ありて煙草を忌む曰く人を懶惰にするなり曰く所嫌はず濫りに唾するの惡弊あるなり

小說家に在てはウヰルキー、コリンスは煙草と親しむこと尤も甚だし渠は曰ふ余は喫煙家攻擊の一文を讀みて大に筆者の恩を謝せんと欲す爾來一層余は我煙草の旨味あることを覺ゆればなりと、ゼームス、ペインは其執筆時間を每日三時間と定む而して其間絕ず煙草を燻らすのみならず每食後に

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

は必ず喫煙を缺くことなし、キングスレーも亦た大喫煙家の名あり渠は平素土製の長煙管を用ゐ而して廢管の多く蓄りたるときは之を工人に附して更に改造せしむるなり露國小說家ツルゲニツフは酒煙草何れをも用ふることなし

新聞記者及び通信員にして喫煙家ならざるものは殆ど罕なり軍事通信者として有名なるオードノヴアラは曰ふ余一日戰地に於て困憊疲勞に堪へず殆ど睡倒せんとするばかりなりしかども是非とも一篇の通信文を書せざるべからざるの必要あり乃ち汚穢なる矮屋の裏暗々たる孤燈を挑げて筆を執る此際余を策勵して數時間の永き能く兩の瞼を閉ぢざらしめしものは一に只かの酒と煙草とに外ならずとヘンチーは喫煙せざれば運筆意の如くならずと云ひ、サラーは四十年の久しき絕ず煙草を喫し來りと云ふ渠は曰ふ喫煙は能力を鈍くし氣力を殺ぐと云ふは偏僻の說なれども兎に角健康上宜しきものにもあらざれば余若し再生し來んには敢て煙草を用ひざらんと欲すと、佛のテインは煙草を以て思索考究の際に缺くべからざるものなりとし且曰ふ余の相識なる文學者の內四分の三は煙草を喫すれども飲酒家は殆どこれあらず英國の新聞記者はシヤンパンの力をかりて執筆すれども我國の記者は晝間其業に從ふが故に隨つて酒力を藉るの要なしと

◉虎病豫防の注意

府下各警察署にては管內の地主差配人等を呼出し左の告示を爲せり

虎列拉病は時季の寒暖に因り消長するものなれば寒冷の候に際し病勢衰退し一時終熄の狀を見るも此時に於て餘毒の全滅を圖らざれば之を翌年に殘

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

し温暖の季に至りて更に流行の慘状を逞すると從來の經驗に徴して其例に乏しからず故に目下病勢衰退の機に乘じ家屋厠圊芥溜及下水の不潔なるものは消毒的清潔法を行ひ蟄伏する餘毒の撲滅を圖り明年再び流行の慘害を來たさゞることを力むべし

清潔法執行程度

一家屋内は大掃除を爲し疊を揚げ日光に曝すと

一床下を掃除し石灰乳を撒布すると

一便所には石炭酸水を撒布し屎地及其周圍には石灰乳を撒布すると

一下水を浚渫ひ其破損せるものは修理し浚渫の前後に生石灰又は石灰乳を撒布すると

一井戸流し破損又は汚水滲透の虞あるものは修繕すると

一虎列拉病患者發生の家にて使用せし井戸は井戸浚をすると

一虎列拉患者發生の家にて使用せし厠にして舊構造の分は此際改造すると

以上の程度に從ひ去月十六日より本月十五日までに普ねく大清潔法を實行すべきことを臨時撿疫部長は去月十四日各警察署長に通牒したる由にて四ツ谷區の如きは已に去月十六日より右の程度に依りて清潔法の實行に着手したり尤も東京府廳にては若し細民にして右の資力に堪へざるものあれば地主差配人をして履行せしめ尚負擔に堪へざれば公費を以て補助すべきに決し且つ家屋床下より掘出したる芥塵及私有地下水を浚渫したる淤泥は郡區役所にて運搬棄却し地先下水の完全を欠き宅地下水に汚水の逆流するものは同役所に於て疏通の

計畫をなすべき事を豫て達示しあれば速かに故障なく淸潔法を厲行し餘毒を未發に撲滅すると云ふ

◉臺灣熱

臺灣土人每朝圊に上り糞便硬ときは其人喜で其日の生命先無事なるを祝し若し軟かなるか或は水瀉の狀あるときは其人驚ろいて顏色なく其日の生命を氣支ふに至り糞便の硬軟を以て其日の生命を卜するもの恐らくは他にあらざるべし是れ目下臺灣の現況なりと人心の戰々兢々として薄氷を履むの感あることと想ふべし實に彈丸雨注の間を往來する時よりも平日安座の時こそ最も氣の揉める時なれ彼の第一野戰病院は病室なきため外來患者のみを取扱ひ居れども患者の診察を請ふもの一日平均五百名而して第二野戰病院の收容患者は六百名以上に垂んとす其病症は臺灣熱第一を占め脚氣赤痢コレラ腸窒扶斯等之れに次ぐと云ふ

元來臺灣熱と稱するは所謂マラリヤ症のものにして內地の瘧の類なり今其病氣の兆候を聞に臺灣熱に限りて發熱と同時に腰部に疼痛を起し漸次熱度上り四肢の關節に疼痛を覺ゆ其熱度は四十度乃至五十度に上り極度まで達すれば解熱し漸々快方に赴むくなり故に他に餘病を惹起すことさへ無くば熱丈にて死するは稀なり此熱病は八月下旬より九月中最も流行すと云ふ

今ま其病源を聞くに第一は水なり尤も臺灣の飲料水は兎に角惡水にはあらざれども何にせよ溝の不潔なる事甚しく異臭常に鼻を衝きて絕ねざる事あり水の腐敗して靑黃色を爲せる小池又た諸所に在り斯く腐敗水より蒸發したる水蒸汽は毒氣を含まざるを得ざる筈なり此毒氣は我邦人の日夜に呼

吸する空氣の中に瀰漫し居るを以て病毒の猖獗する無理あらず第二は驟雨なり驟雨の降ること日に三四回其度毎に衣服を濕はし土人すら此雨を恐るゝこと甚し此雨は即ち腐敗せる水の蒸發して更に水と爲りたるものなれば此雨の中に毒氣を含むこと勿論なり此二大原因判然たるにも拘はらず我軍隊は戰時の事なれば此雨に濡れ鼠と爲り或は腐水の中を渉り其上朝夕氣候の激變あるを以て健全のものと雖ども此地に來れは脆くも病に取つかゝるなり脚氣リヨツマチス腸窒扶斯其他の病氣は又た是等に原因するものゝ如し家屋の構造煉瓦作りにして濕氣の多きも其一因あるか如し

土人は如何にして此惡疫を豫防するやと云ふに彼等も一ト通りの衞生法は自然心得居るものゝ如し第一家屋内に在りて外氣を避くる事第二雨に沐せざる事第三腰部以上は老若の差別あるも腰卷を爲し夜氣に濕はざる用心を爲す事扨て軍醫は此病氣に對し如何に治療するやと云ふにキニーネ或は亞砒酸少量を用ゆ亞砒酸最も効あり又た土人の用藥を聞くに籤を以て適當すべき藥品中の一を選み煎藥として飲むなり其効能は固より判然せず

病勢斯く猖獗なりと雖ども幸に輕症者の多きは不幸中の幸と謂ふべきか而して臺灣熱即ちマラリヤ熱ある者の病因は濕地より發する一種の惡毒にして我國越後に於ける恙虫病ある者と其趣を同くす而して平定後先づ之が撲滅を謀るため疏水工事を起して濕地を減ずる方法を實行する由あり

◉不產菌性水製造機械の實地試驗

佛國醫學博士ガブリエル、ブーシエー氏の發明に

係る不產菌性水製造機械は海軍少技監若山鉉吉氏によりて輸入せられ品川電燈會社に於て實地試驗をなしたりと陸海軍醫及名醫十餘名來會機に盛りたる清水に燃力を加へ之を製造したり製造の目的は水に過度の熱力を加へ水中にある黴菌を撲殺し之と同時に水中に含有せる酸素を熱し一度熱したる後再び冷却するも曾て受けたる熱度によりて更に飛來せる黴菌を燒き殺さしむる性質を酸素に與ふるにありと同機械は目下專ら佛國巴里の旅宿飲食店病院等に行はれ居るものあるかもし試驗の上有效なるものなりとせば本邦に於て更らに簡便なる機械を製し實用に適せしむる筈なりと又右効力の如何を試驗するため山根警察署務長及び北里高木両氏はいづれも不產菌水を瓶詰めにして持ち歸られたれは不日其効果を公にせらるべしといふ

●來年はコレラ大に流行せむ

本年は戰役後の結果としてコレラ流行し從來の患者統計によれば去月初は第三流行期に位せしが病毒尙未だ滅せず爾後追々患者增加し其數五万六千人以上に登りて第二流行期に位するに至れり明治に於ける第一流行期は明治十九年にして患者總數十五萬五千九百二十三人あり而して斯く流行したる原因は前十八年秋來コレラ流行して引續き冬期に至るも悉皆撲滅せず其餘毒を翌十九年に及ぼし大流行を惹き起したるなり目下の處にて第三流行期とも云ふべき明治廿三年も矢張り同斷の次第にて前年度の餘毒冬期に撲滅せざりし爲め發病の原因となりたり去れど當時は今日の如く政府の盡力も行屆かず經驗も積まず隨つて豫防消毒等の術に

精しからざれば病毒を防ぐに容易ならざりしが今日は人民の敎育發達して衛生上の智識も稍や進步し來り該病を陰蔽する弊害少く撿疫上頗る好都合あるにも拘らず冬期に及びて尙は餘勢を逞うしつゝあるを見れば來廿九年は必ず大流行を免れざるべし政府は既に此點に着目し善後策講究に怠らざることあるが吾々も亦充分衛生に注意し豫防を怠らざること肝要なり

◉三府に於ける本年の虎列刺

東京、京都、大坂の三府に於ける本年初發より一昨廿五日迄に發生したる虎列刺患者及死亡數は左の如しと

	初發より十一月廿五日迄患者數	同死亡數
東京府	三千〇八十四人	二千二百四十七人
京都府	千四百八十人	千二百五十一人
大坂府	三千五百五十二人	二千二百二十六人
	計七千七百十六人	計五千七百二十四人

而して東京府下の虎列刺患者及死亡數を各郡區に區別すれば左表の如し

東京府下虎列刺

區郡	患	死
麴町	一〇五	六六
神田	三九五	三〇五
日本橋	三六九	三一二
京橋	二四八	二二〇
芝	二五〇	一七三
麻布	六七	四一
赤坂	四五	三二
四谷	二九	二四
牛込	一〇三	七六
小石川	九七	六一
本郷	一〇一	七四
下谷	一八一	一三五
淺草	三五四	一九八
本所	二五八	二一〇
深川	三八二	三二〇

●雛卵中の害虫

帝國大學醫科生某氏此頃食用の爲め一箇の雛卵を破りしに胥白歛と黄味の間に一點黑きもの丶蠕動き居たるを發見し雛卵中にも亦た蛆を生するかと驚きつ丶早速其液体を收めて原の殼に入れ三浦教授に示しけるに教授は一見して說明すらく是れとそは二口虫と呼びて口の外に吸盤を具へ概して言へば先づ蛭の如き類にして能く物に吸び付くの性を有するものなれ左れば人若し之を嚥み下すときは不幸胃液によりて消化せられざれば二口虫は直ちに肝臟に入りて其動作を始め血液を吸收してその結果或は人を倒すに至るべし注意すべきとあり云々といひし由因に記す此虫の雛卵中に棲むは初め雛が啄みたる物に附してその胃に入り尚は消化せられずして卵巣に至り遂に生のま丶にて鷄卵中に入り來るものなりといふ恐るべし警しむべし

●東西按摩術の差異

醫師の外鍼治按摩あるは東西西洋とも異なる所なきが本邦の按摩は啻に筋骨を摩するのみなれど西洋の按摩は神經を探り神經を按摩するが故に脚の強直僂麻窒斯其他神經系統の諸病は却て本邦の按摩に優る所あるが如し小石川なる盲啞學校にては盲啞の徒弟に職を得せしめんが爲め此程より西洋按摩の課目を設けあるが同校にありて之を卒業し芝三田に居住せる佐々木吉太郎氏は之を實地に試み居るに其效著しと云て人々より申込多しといふ

●日本人享年の平均

全國人口四千二百余万中年々毎に死亡者の年齡を積算てし之を其死亡者の總數にて割出したる本邦人享年の平均に付き内務省の調査に據れば去る明

治廿年より同廿四年に至るまで五ヶ年間の平均を見るに左の如し

二十年　三十七年七分九厘
二十一年　三十六年六分四厘
二十二年　三十五年七分〇
二十三年　三十六年九分四厘
二十四年　三十七年一分四厘

右五ヶ年間平均三十六年八分四厘なりと實に早世なりと云ふべし吾れ〳〵は宜しく早世の原因を推究せさるへからす

●吸付煙草と酒盃の献酬

吸付煙草と酒盃の献酬は本邦人の習慣にて何人も怪しむものなれと醫學者の説によれは右は恐るべき傳染病の媒介にて即ち病毒の原因なる么微有機体は斯る些細なる機會に投じて病者の涶液或は煙に混じて傳播するを以て英國にては夙に此危險を悟り公然右に關する法律を規定したるとさへありとされば醫學社會にては此等の習慣を打破せんと勉め居るよし去れば吸付煙草及杯のやりとりを爲さゝる習慣を養成したきものなり

●マラリヤ熱の流行

時候の加減にや此頃府下にては頻りに腸窒扶斯病の流行する由なるが目下又臺灣歸朝者の輸入したるにや腸窒扶斯とは多少其趣を異にしたるマラリヤ熱も亦た流行しつゝありと云ふ

●癩病の研究

同病注射治療法は實驗上頗る良好なる結果を奏し其内十四名は全く本復したるにより過般石黒軍醫總監の來訪を幸ひ右全治者を呼集めて氏の撿診を請ひしに同氏は其健全無比常人に異らざるを證し併せて該治療法の有効なるを賞揚され以來同症の治療を請ふ者非常に多きよしなり因に記す青山

博士は近頃又赤痢病血清治療の事に付研究中なりといふ

◉タコ娘

京都府下丹後國宮津町の小谷某の妻(二十八年)の産みし兒は手四本足四本陰門二つ肛門二つ背部には顔面にならんとして變じたる如きものあり乳の飲量一人前にして牛乳は一晝夜一升六合づゝを飲盡くし大便小便は二箇所より一時に出づ發育甚よろしといふ造化の戯も亦甚しと云ふべし

◉大日本婦人衛生會會況

十一月二日第一土曜日午後一時より麹町内山下町華族會館に於て常會を開く當日は强風曇天會する者凡三十餘名藥學士丹波敬三醫學博士坪井次郎二氏の講演あり坪井氏にも例の如く實驗或は標本を示して演説せられ午後四時過ぎ散會せり

廣告

去十一月より十二月に至る入會轉居者左の如し

◉會員俊野いわ子の紹介により

愛媛縣温泉郡桑原村大字正圓寺　石原麟子

◉會員井澤ろく子の紹介により

日本橋濱町二丁目九番地共立看護婦會　山脇きよ子

本郷元町二丁目四十七番地秋間爲子方　鎌田ふぢ子

◉評議員中村春子の紹介により

牛込新小川町二丁目五番地　通常會員　青戸さく子

麹町壹番町二十七番地　通常會員　安永きく子

京橋宗十郎町六番地深堀方　通常會員　田代たけ子

◉會員本間いと子の紹介により

京橋西紺屋町八番地看護婦會　山本里子
仝　川俣はる子
仝　駿河なか子

◉會員綿谷禮利子の紹介により
日本赤十字社病院　村松ふさ子

◉會員千種よる子の紹介により
日本赤十字社病院　伊藤信子
仝　秋元みち子

◉會員朝日奈とら子の紹介により
芝愛宕町二丁目傳染病研究所　村石よね子

◉通常會員三浦敏子の紹介により
芝三田二丁目三番地　通常會員　笠原保子

◉幹事西靜子の紹介により
芝三田綱町一番地　通常會員　向山靜子
芝三田臺町壹丁目廿八番地　通常會員　加藤展子

◉會員梅林寺とよ子の紹介により
第一醫院　野田きく子
仝　福田はな子

轉居

日本橋蠣殼町二丁目一番地へ　象子きみ子
本郷森川町一番地二百四號へ　呉みな子
麹町五番町十六番地へ　小鹿島ふで子
牛込中里町廿七番地へ　瀬川ゆき子
青山權田原町二十七番地へ　大久保きみ子
芝愛宕町二丁目研究所へ　朝日奈とら子
赤坂田町二丁目十五番地へ　野崎わか子
芝三田三丁目六番地へ　大西靜子
芝三田小山町五番地へ　宇敷かつ子
芝綱町一番地へ　大野春子
本郷弓町一丁目廿六番地藤澤新次郎方へ　佐藤とめ子
下谷仲徒町三丁目二十七番地へ　岡田秀子
麹町飯田町五丁目廿四番地へ　福田きね子
兵庫縣須磨浦二ノ谷へ　野田せい子
日本橋青物町三十一番地へ　岡野かく子
深川洲崎辨天町へ　井澤ろく子
下谷龍泉寺町九十二番地へ　増田はな子
豊嶋村字中里へ　末川將常子

大日本婦人衛生會

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

私立大日本婦人衛生會規則

第一條 凡本會の目的は汎く婦女子をして人生の健康を保持するの方法を講究し衛生上の智識を開發せしめ隨て社會全般の幸福を增進するにあり

第二條 本會は私立大日本婦人衛生會と稱し之を東京に置く

第三條 本會の會員たらんと欲する者は身分の尊卑を問はず何人にても入會することを得

第四條 會員たらんと欲する者は族籍住所姓名を記し本會事務所へ申込ある可し
但事務所は下谷區練塀町四十三番地に置く

第五條 本會々員を分て終身會員特別會員通常會員の三類とし共に會費金を納むる者とす
但終身會員は一時に金拾圓以上を納め特別會員は一年金二圓四拾錢以上を納め通常會員は同金壹圓二拾錢を納むる者とす尤も會員中書生及其他事故ある者は唯雜誌料として同六拾錢を納めしむ

第六條 男子にして本會の主義を賛成する者は之を賛成員とす尤も會費は本會員に同し
但本會に功勞ある者は役員の協議を以て終身賛成會員(無會費)とすることある可し

第七條 本會に推戴員を置き其中より總裁一名を奉す推戴員は皇族の御息所等に之を申請するものとす

第八條 本會は左の役員を置く
會長一名 副會長一名 幹事七名 評議員二十名 書記若干名

第九條 會長副會長及幹事評議員は會員の投票を以て之を撰擧し書記は幹事の推撰により會長之を命ず
但書記は都合により會員外の婦人又は男子に托することあるべし

第十條 會長は本會を總理し副會長は會長を補佐し又は其代理をなし幹事は會長の命を受けて會務を處理し評議員は重要なる會務を評議し書記は役員の命に從て諸記錄及雜務を掌る
但幹事の分課を設けて第一 會計 第二 編輯出版 第三 庶務とす

第十一條 會長の見込を以て右役員外に會員中より臨時に指名委員を置くことあるべし

第十二條 會長副會長及幹事評議員の任期は一年とす尤も再撰するも妨げなし

第十三條 會長副會長及幹事評議員は無給料とし書記は相當の報酬を給す

第十四條 本會の集會は七月八月を除くの外毎月一回として通常第一土曜日午後一時より之を開く

第十五條 毎會學識經驗ある者を聘し講義演説を囑し本會々員の演説と共に之を筆記して本會雜誌に掲載し毎月各一冊つゝ無代價にて之を會員に頒付するものとす
但し演説の間に談話を交ゆる事あるべし

第十六條 會員は家族の婦女子又は知己の婦人を會々場に誘致して傍聽せしむることを得

第十七條 本會講義演説の際男子の傍聽を禁ず
但會員に縁故ある男子は此限にあらず

第十八條 本會の所有金は本會の名義を以て三井銀行に預くるものとす
但些少の金額は日々の費用支出の為め事

Digitized by Google Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

明治二十一年二月二十八日内務省許可

務所に引出置を得

第十九條 會計の収支は總て會計課幹事の撿印を要す

第二十條 會員又は會員外より金圓若くは書籍物品等を寄贈あるときは本會より謝狀を送り且寄贈の品目及其人の姓名を本會雜誌に載せ報告するものとす

第廿一條 會費は郵便小爲替にて東京下谷郵便局へ向け振出しある可し

但不得止場合には郵便券を代用するも妨けなし尤も一割增とす

第廿二條 入會員には會員證を附與すべきに付郵便にて申込の者は郵便券二錢を添ふ可し

第廿三條 毎年三月九月の總會に於て會計の収支庶務の概略幷に會員の增減等を報告す可し且規則改正の案あれば之を議定するものとす尤も議定は總て多數決とし可否半數なるときは會長之を決す

但至急規則の改正を要する事あるときは豫め會員に報して臨時に之を爲すとを得

第廿四條 三月の總會に於て役員の撰擧をなすものとす

第廿五條 規則の範圍内に於て役員の評議を以て會細則を設くることを得

第廿六條 各地方にて發起者十人以上ある者は支を設くることを得

但其規則は本會の規則に抵觸せざる樣起草し本會役員の認可を經へし

第廿七條 本會の集會場は時々報知する者とす

第廿八條 會費金は受領證を付與すべし尤も小送替又は郵便券にて納むる者は右受領證遞爲費として郵券二錢を添ふべし然らざれば受領證は送付せざるものとす

第廿九條 入會後轉居する者は速に事務所に通知ある可し尤も死去の節は親戚知友等より通知ある可し

第三十條 退會せんとする者は會員證を添へて其旨事務所へ報知あるべし

明治二十五年九月

東京下谷區練塀町四十三番地

私立 **大日本婦人衛生會**

明治廿八年十二月四日印刷
明治廿八年十二月六日發行

發行所 東京下谷區練塀町四十三番地
大日本私立婦人衛生會

編輯兼發行者 東京牛込區矢來町三番地
田中德三郎

印刷者 同 神田區小柳町十三番地
小高良造

印刷所 同 神田旅籠町貳丁目拾一番地
廣業館

明治廿六年四月四日遞信省認可 第一金曜日發行

（定價金拾錢）